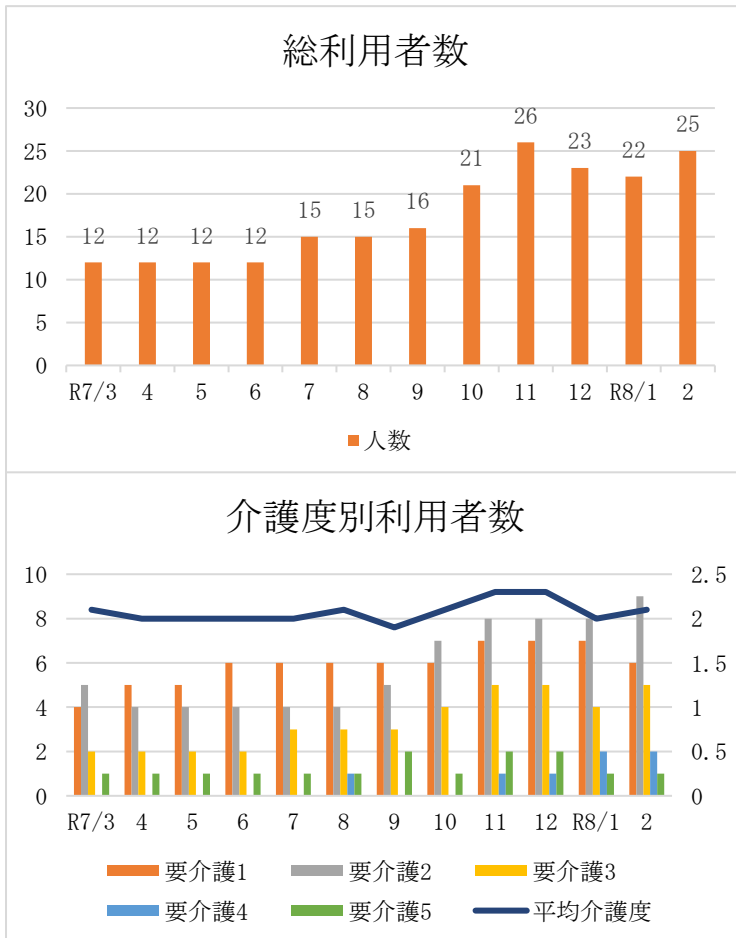


(別紙 1)

1) 活動状況の報告

① 利用者数について



- ・医療依存度の高い利用者の終了に伴い、新年度に入り利用者の伸びが悪く停滞している期間が見られた。
- ・この一年間の総利用者数：40名、終了：16名、看取り：3名、入院：11名（うち入院先で死亡 6名）、状態の安定：1名、看多機へ移行：1名

- ・介護度 1, 2 の利用者が多く、平均要介護度は、「2.1」となっている。
- ・介護度 4, 5 の方は医療依存度が高い方であり、短期間で終了になっている。現在、認知症夫婦の依頼が多くなっている状況。

② 訪問回数について

月別回数 (定期・随時)

月	R7/3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	R8/1	2
介護職員	968	886	1015	1014	1223	1186	1253	1513	1497	1562	1582	1384
看護職員	35	36	40	38	56	43	49	60	60	59	65	80
合計	1003	922	1055	1052	1279	1229	1302	1573	1557	1621	1647	1464

緊急コール・随時訪問回数 (R7年3月～R8年2月)

随時対応数 (コール数)	50～230 回/月
随時訪問数 (介護)	20～80 回/月
(看護)	10～20 回/月程度

- ・ 訪問回数は利用者数と比例している。
- ・ 利用者の平均訪問回数は、1日2~4回。要介護1、2で独居の利用者が多いため見守りを含め、訪問回数が多くなっている。
- ・ 利用者の体調や、ケア内容によって滞在時間は異なるが、1回の訪問時間の平均は15分程度となっている。
- ・ 緊急(随時対応)訪問は、理由としては本人からの不安の訴え、家族から依頼される安否確認、排泄介助が多い。
- ・ 緊急コールは認知症、独居の利用者が多いことから、ご自身の置かれている状況が、わからなかった、何をしたらよいかわからず不安から連絡してくることが多くみられている。

③ 事業所の取り組み

・ グリーフケア

この1年間で、私たちは3名の方のお看取りをさせて頂きました。

・ 地域との交流

認知症カフェ（しらゆりカフェ）開催

1回目：3月→体操・歌のレクレーション（作業療法士企画）

2回目：6月→認知症のはなし コースター作り

3日目：9月→夏バテ防止（看護師企画）

4回目：12月→認知症を理解する（中核症状、近い判断力の障がいについて）

5回目：3月→認知症を理解する（中核症状、実行機能障がいについて）

毎回、30名近い方の参加があり、地域の方に周知されてきたと思われる。

また、認知症の啓発活動と製作や体操、歌など楽しめるものを毎回企画している。

地域交流会(篠原事業所にて) R7年10月19日開催

内容：世代間交流を目的として、健康・介護相談、バザー、絵本の読み聞かせ、輪投げくじ引きを企画。

参加者：71名（男性：22名 女性：49名 うち甲斐市外19名を含む。）

- ・ 当日、小雨が降るなど天候が不安定であったが、初回の開催にしては、多くの方に参加していただけたと思う。
- ・ 血管年齢測定が好評で、23名の測定参加があった。
- ・ 多世代の交流の場になった。

2) 職員研修の実施状況

【研修内容】

内部研修…マスク、ガウン、手袋の着脱方法

ポディショニング指導

吸引について

認知症ケア

調理時の衛生管理について

緊急時・急変時の対応と連絡方法

外部研修…虐待防止についての学び

(支援を見つめ直して)

介護職員の介護技術・知識向上研修

介護現場におけるリスクマネジメント研修

福祉職場におけるメンタルヘルスマネジメント研修

介護職員の介護技術・知識向上研修

(QOL を高める生活支援の視点)

(障がいのとらえ方と生活支援・ICF を活用して)

(自立支援に向けた基礎介護技術)